

校長室だより		令和4年6月8日発行
共学共高	第	
	27	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

津田塾大学訪問記

関東地方が梅雨入りした日、津田塾大学小平キャンパスを訪問させていただいた。本校からは車で10分程度の立地にある。私自身は、昨年秋に、本学園の井原徹理事長、佐々木理葉財務課長と共に、高橋裕子学長先生と学長補佐の根本和彦先生を表敬訪問させていただいたことがあるので、両先生とお会いするのは2回目であった。今回は、佐々木財務課長が所属する学会において、高橋学長先生から御講演をいただく打ち合わせに随行する形で、白梅学園清修中高一貫部の山田裕校長と共に、お伺いさせていただいた。高橋先生と根本先生には、いつも温かく迎え入れていただき、さまざまにお話を伺ったり、お声掛けいただいたりして、とても有意義かつ楽しい時間を過ごさせていただくことができる。本当に感謝申し上げます。

今回は、前回訪問時にかなわなかった、津田塾大学の創立者である津田梅子先生の墓所を訪れることができ、感慨深いものがあった。御存知のとおり、津田先生は、1871（明治4）年、岩倉具視使節団に伴われて初の官費女子留学生の一人として、6歳のときに日本を旅立ち、船上で7歳を迎えて1872（明治5）年にサンフランシスコへ到着した。教育関係者ならば、誰もが記憶している日本における学制発布の年のことである。まさしくグローバル人材の先駆けといってもよいのではないだろうか。その意思是、「学びを社会に還元し、次世代の道を切り拓く女性になっていく」という津田塾大学の精神に受け継がれている。その精神に大いに共感する。私も女子校に勤務しているが、教養の土台を身に付け、大学以降の学びの中で、高い専門を積み重ねて、自らの幸福を追求するとともに、社会貢献できる女性を育てたいという思いで、教育に携わっているからだ。



ハーツホン・ホール



岩倉使節団の屏風画 (左から二人目が津田梅子)



津田梅子墓所

図書館内にある津田梅子資料室では、1年単位で収蔵資料の企画展が開催されているようだ。現在は「津田梅子 本とひと」という企画が開催されている。さまざまな写真とともに、津田先生が読んだ書籍や協力者との関係などがわかるようになっている。ここでも、司書の方に長時間お付き合いいただき、詳しい説明などをしていただいた。お忙しい中、ありがとうございました。図書館の蔵書は、40万冊という多さである。資料室前から図書館内を見渡すと、趣があり、一瞬、New YorkのPublic Libraryを彷彿させる景色である。丹下健三氏の設計だという。また、館内にはActive Learning Spaceがあって、机や椅子を自由に動かしてグループごとに活動したり、プロジェクター付きのスクリーンボードが備えられていたりする部屋がある。多様な学びができる空間のようだ。

視聴覚センターでは、映像教材やコンピュータを活用して語学教育を行うCALL教室が備えられている。その奥にはいくつかのブースがあって、グループ学習できるようになっている。また、センターの入り口付近には、CNNニュースが流れ放しになっているコーナーがあり、興味深かった。



図書館



津田梅子資料室

本館は、ハーツホン・ホールとも呼ばれ、東京都の選定歴史的建造物に指定されている立派な建物である。設計者は、日比谷公会堂や大隈講堂を設計した佐藤功一氏だ。また、構内は緑が多く、自然豊かな環境である。このような環境で学ぶことのできる学生さんたちは、幸せだ。

学生食堂（PLUM terrace）は広くて、清潔感あふれる場所である。学生のみなさんは食事をするだけでなく、自習でもよく活用しているとのことである。私たちは、喫茶カフェルポで、パスタランチとケーキセットをいただいた。もちろん、とても美味しいランチ&デザートであった。カフェの職員の方々も丁寧に対応してくださり、ありがたかった。高橋学長先生と根本学長補佐先生との懇談の時間は、あっという間に過ぎた。女子教育に携わる私としては、お二人から大いに元気をいただいた。高橋学長先生のお話の中で、特に印象的だったのは、「自分に Fit する大学を選ぶことが大切。偏差値だけではない。大学に入ってから自身がどれだけ成長できるかが、重要なからだ。」というメッセージだ。大学に入ることだけが目的ではない。大学以降で伸びていくことが大切だ。Harvard 大学でも「伸びしろのある人材」を求めているのではないか。白梅学園清修中高一貫部では、高橋学長先生に生徒向けの御講演をしていただいたことがあるとのこと、白梅学園高校でも御講演いただける機会を設けたいとの思いを持った。



Active Learning Space



カフェのパスタランチ

こうして校長室だよりを書いていると、津田塾大学と私との接点がいくつか思い出された。前任校の校長の時、現在の総合政策学部長である萱野稔人先生がパーソナリティを務めるラジオ番組に出演させていただいたことがある。また、現在、教育実習に来ている学生さんたちの中にも津田塾大学の在学生在がいる。当然のことながら、カフェルポのことも知っていた。また、本校に勤務していただいている先生の中にも、津田塾大学の卒業生がいる。そういえば、私の妻も津田塾大学数学科の卒業生であった。（この校長室だよりを読んでいないことを祈る）

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）